## 建築土木工学科

| キーワード | 建築論、都市論、都市計画、地域計画、地域再生、まちづくり |
|---|---|

教授 / 博士（工学）
下　川　　勇
Isamu Shimokawa

### 学歴

日本文理大学 工学部 建築学科、福井大学 大学院 社会システム学専攻 博士前期課程、
福井大学 大学院 工学研究科 システム設計専攻 建築・都市システム講座 博士後期課程、
京都大学 大学院 工学研究科 建築学専攻 研修員

### 経歴

株式会社 ゆう建築設計 京都本社設計部、福井工業大学 建築学科 非常勤講師、
福井工業大学 講師/准教授/教授

### 相談・講演・共同研究に応じられるテーマ

まちづくり全般の相談/講演

### メールアドレス

shimokawa@fukui-ut.ac.jp

### 主な研究と特徴

## 「地域特性の解読および具体的開発方法の研究」

都道府県市町の中心部であれ、農村部であれ、漁村部であれ、地域は歴史を紡ぎながら特有の＜かたち＞を形成してきた。地域を＜つくる＞ということは、その＜かたち＞を如何にとらえ、リデザインするかである。現在の地域は、まさしく、＜かたち＞＜つくられた＞結果である。建築・都市の分野において＜つくる＞は、＜開発＞という仕方で具現化する。材料を使用して構造的に具現化するハード開発、人と何かを結ぶことでコミュニティを具現化するソフト開発が目下の課題となる。この課題はすべて地域に由来する。つまり、地域の解読こそが＜かたち＞＜つくる＞の始まりであり、建築・都市の分野においては本領である。

本研究は、文献・調査によって地域特性の解読をおこない、実践的にリデザインする研究である。写真1は伝統産業に潜在するSDGsを発見する研究で、現在、越前町梨子ケ平地区の水仙農業を調査している。当該地域は伝統的な水仙栽培を行う地域で、後継者不足により水仙産業の衰退ひいては地域の存続という問題を抱えている。本研究ではこうした地域の振興策につながる地域の価値を伝統産業の価値として表出することを目指している。写真2は大野市南六呂師地区で行われている観光イベントである。本研究では高原という人為を遠ざけてきた環境から自然共生の理念を想起し、環境負荷を低減する仮設装置（ハンモック）を利用した星空観望のイベントを開発した。写真3は都市の$CO_2$濃度を観測する研究で、$CO_2$の発生源と吸収源を特定することで、都市レベルでのカーボンニュートラルの実現を目指している。

また、本研究に関連して、現在（2020年）坂井市とともに東尋坊の再整備基本計画の作成に従事し、大正期に施行された史跡・名勝天然記念物の法制度の変遷を通じて、自然再生の方法と継承すべき自然共生の理念を見出し、これによる新たな東尋坊の＜かたち＞を定めた。これは、しばらく後に＜かたち＞を現すことになるだろう。加えて、越前市の仮称南越駅周辺再整備計画においても、中世期から現代にいたる地域特性として＜農＞の生活文化を抽出し、開発の際に新技術を応用した農業エリアとしてリデザインする方法を提言している。

上記のように本研究は、地域特性の解読を通じて具体的な開発方法におよぶ研究をおこなっている。

図1.伝統産業のSDG s（越前町）

図2.「星空ハンモック」（大野市南六呂師）

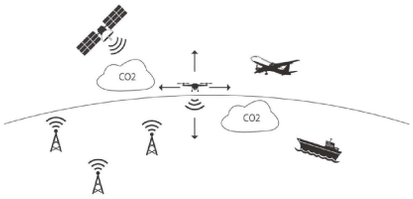


図3. 都市の$CO_2$観測（イメージ図）

### 今後の展望

地球規模の気候変動による災害、人口減少による地域再編、ライフスタイルや外的要因による生活様式の多様化といった、人々の生活に直接影響を及ぼす問題が顕在化し、対応が迫られる今日において、今一度、私たちが拠って立つ地域そのものを再評価する必要がある。本研究の特徴は、まさしく、計画の根拠とすべき＜地域らしさ＞を分析する点にある。

伝統産業のSDGs研究では、担い手不足により衰退する地域において、これまでとは異なる視点の地域価値を表出することにより、地域振興の新たな手法を提案することが可能となる。

星空の観光イベント会場である高原では、自然保護と経済活動を両立しており、これにより建築・土木分野の空間創造における構造物を建てないという選択肢があることを実証している。

$CO_2$観測研究では、人工衛星観測・地上基地局観測・航空機観測では測定が難しい自由な観測エリアでの高精度の濃度測定を目指しており、これにより地域の実態に即した都市開発手法を見いだすことが可能となる。

### 所属学会

一般社団法人 日本建築学会　（平成9年～現在まで）
公益社団法人 日本都市計画学会　（平成29年～現在まで）
JUDI都市環境デザイン会議　（平成29年～現在まで）

### 主要論文・著書

『建築制作論の研究』建築論研究会編、所収「ヴィンチェンツォ・スカモッツィの建築制作論」、中央公論美術出版（2016年 ISBN：978-4-8055-0757-5）
『建築論研究 02都市論への挑戦』建築論研究編集委員会、所収「建築論としての都市論の課題」（2020年 ISSN 2434-9755）